



2014-2015年度

広島北

ロータリークラブ週報



Rotary Club of Hiroshima North  
2015年6月25日発行 Vol. 1437

国際ロータリー会長 ゲイリー C.K. ホアン 氏  
国際ロータリーテーマ

LIGHT UP ROTARY

ロータリーに輝きを

■会長 河本 浩一 ■幹事 合田 尚義  
事務局 広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F  
TEL 082-506-0050 FAX 082-506-2530  
E-Mail:hnrc@world.ocn.ne.jp URL http://www.hnrc.jp/  
例会 毎週木曜日 12:30 ホテルグランヴィア広島

■本日の例会 2015年6月25日(木) 第2230回  
ロータリーソング 「それでこそロータリー」  
会長時間  
幹事報告  
委員会報告  
ホームクラブ100%出席表彰  
『新会員歓迎懇親会』

前例報告 2015年6月18日(木) 第2229回

ロータリーソング 「手に手つないで」  
来客紹介 ローター-家族親睦委員会  
寄付表彰  
永年連続出席表彰  
会長時間  
幹事報告  
委員会・同好会報告  
ニコニコ箱  
卓話時間 「退任挨拶」 正副会長幹事

永年連続出席表彰



永年連続出席10年を迎えた、  
中根会員と下前会員に記念品を  
贈りました。  
おめでとうございます！

会長挨拶

会長 河本 浩一

さて、来週の例会を残すのみで、当年度のロータリーの全てが完了の時を迎えます。過ぎ去ってしまえば、月並みではありますが、一瞬の出来事のように感じられます。皆様方の温かいロータリー-友情に支えられ、創立46周年という新たなページを美しく飾ることができました。これもひとえに理事、役員、委員長をはじめ会員各位からの温かいご支援とロータリー-友情の賜物です。ここに皆様に深甚なる敬意を表しますと同意に、衷心より深く感謝を申し上げる次第です。50回近い例会の会長の時間では、当クラブ伝統の「明るく調和の取れた、居心地のよい、楽しいクラブ」を念頭において、様々なご意見やご批判のすべては叱咤激励と飲み込んで、時折々の話題をもって語りかけてきました。意に沿わないところがあれば、ロータリー-友情に免じてお許しいただきたく存じます。この度、伝統ある当クラブの会長を拝命して過ごしてきた1年間は、この歳にして「物事を根源にまで遡って考える」のに絶好の機会となり

ました。自分の見る目の高さが少々上がったからでしょうか、—ここでは別の立場から俯瞰して自分と向き合うことができるようになり、わが人生における大きな宝物を授かったようで感謝に絶えません。会長拝命という機会をつくって下さった会長経験者でもある中尾さん・古谷さんには、ここに深く謝意を表します。ロータリー-の会長は、ある意味ではその時々-の巡り合わせのようですが、クラブ-の歴史と伝統を積み重ねてゆく、というクラブ奉仕の大切な使命でもあります。今後とも会長への声がかかりがあれば快く引き受けられて、人間として一皮剥けるような達成感とともに「一生の財産」とされることを願って止みません。最後に高いところからではありますが、改めて皆様方の温かいご支援とご協力に厚くお礼申し上げ、会長の時間を終わります。ご清聴有難うございます。

寄付表彰



ローター-財団寄付認証  
山本忠男会員 マルチプル・ポールハリス・フェロー(2回目)  
原田義弘会員 マルチプル・ポールハリス・フェロー  
米山記念奨学会寄付表彰  
第4回米山功労者マルチプル 原田会員・山本(忠)会員・広川会員・中川会員・桑村会員

幹事報告

幹事 合田 尚義

\*次週6/25(木)は最終夜間例会です。  
\*7月例会予定表(BOX配布)

委員会報告

ローター-家族親睦委員会 島本委員長  
次週は最終例会&新会員歓迎懇親会です。  
次年度プログラム委員会 小林会員  
次年度7月のプログラムをお配りしています。次年度理事役員委員長の皆さんには就任挨拶をして頂きますので、よろしくお祈りします。  
次年度会報IT委員会 下川会員  
例会終了後、委員会を開催します。

同好会報告

野球同好会

6/12-13 甲子園遠征報告

別府北RCと対戦し、19対0で勝利しました。



ニコニコ箱

ニコニコ委員会

【自主出宝】

河本会員・中山会員・合田会員・二井本会員・佐々木会員

いよいよ今回で、今年度最後の出宝となりました。本日のプログラム時間では、正副会長幹事の退任挨拶をさせていただきます。よろしくお願い致します。

**島本会員** 今日で通常例会が最後となり、来週の最終例会を残すのみとなりました。一年間、親睦委員会としてお世話になりました。委員会の皆さんにも感謝しております。

**高原会員**◇ 1年が無事終わりそうで、ガハナー補佐、選考委員長の責務が終わり、ホッとしているところです。

**下前会員** 連続出席10年になりました。これからもよろしくお願いします。

**原田会員** 第4回米山功労者マルチプルを頂きました。有難うございました。長く居れば何かもらえるんですね。

**山坂会員・庄子会員・中山会員・山下(正)会員・神農会員・東会員・山内会員・岡部会員・越智会員・岡本会員・森会員・浦会員・本田(善)会員** 甲子園大会が終わりました。前夜祭ではお国自慢をする予定でしたが、浦会員がプレゼン用のDVDケースだけ持ってきて中身を忘れ、急きょ、土砂災害奉仕プロジェクトの報告に変更。前夜祭後の二次会は甲子園球場近くの焼き鳥屋、三次会はいつもの甲子園ラーメン(味がレベルアップしていました)試合は前夜祭で失態した浦投手の完封、全員野球で19対0の快勝でした。

**迫会員** 先日は「全国RC野球大会」で甲子園球場に生まれてはじめて行きました。猛烈に感動しました。3塁コーチボックスに立ただけでも感動したのに代打で打席にも立てました。夢のようです！山坂監督はじめ野球部の皆さんありがとうございました。脊髄損傷して8年が過ぎましたがゴルフも登山も広島北RCのおかげでチャレンジできて生き甲斐を感じております。何も恩返しが出来ませんがこれからも頑張りますので宜しくお願いします。

**岡部会員** 甲子園大会、2番ショートでフル出場。甲子園での左打席初ヒットからデットボール2個、振り逃げもあり5打席で出塁率10割、練習中に砂被り席でヒザを強打。デットボールも2回受け、ショートライナーを手首で受けるなど体中アサだらけ。ハダカになったら特殊な趣味の持ち主に間違われそうです。

**浦会員** 甲子園野球大会の前夜祭では上映予定のDVDを忘れてしまいますという大チョンボをしてしまいました。岡部さん、越智さ

ん見事なフォローありがとうございました。

**森会員** 甲子園大会では負傷交代とご迷惑をお掛けしました。本田(裕)会員 本日の中国新聞に掲載されましたが、26年度決算で過去最高益を出すことができました。これも皆様のおかげと感謝申し上げます。

**山坂会員** 6/19BMWのバイクショップ『モトラッド北九州』がプレオープンします。よろしくお祈りします。山下正司君、ありがとう。

**山坂会員** 6/20に『パルコムBMW福山』ミニ福山が建替え新築でプレオープンします。よろしくお祈りします。山下正司君、またまたありがとう。

**山下(正)会員・岡部会員・越智会員・桑村会員** 山坂さん、明日BMWモトラッド北九州オープンおめでとうございました。

**佐々木会員** 私41歳ご多分に漏れず、痛風を発症しました。薬生活になりましたが、尿酸値を下げるべく精進してまいります。

**中尾会員** 本日、所用のため中途退席させていただきます。申し訳ありません。

**ニコニコ委員会(塩本(能)会員・桑村会員・炭田会員・深川会員・松田会員)** 今日で本年度最後のニコニコとなりました。一年間ありがとうございました。

当日計 51,000円(内、web15,000円) 累計 1,384,400円

★=10,000円 ☆=5,000円 ◆=3,000円 ◇=2,000円

卓話時間

『退任挨拶』

会長 河本 浩一 会員



会長の時間ですすでに退任の挨拶を済ませましたので、ここでは別の話をさせていただきます。

人生とは筋書きのないドラマである、一と例えられますが、これはまことに言い当てて妙であり、まさしくゆき着く先はいつも霧の中を彷徨しています。徳川家康によると「人生は重荷を背負い坂道を登るが如し」と言っており、山あり谷ありであり、何が起きるか分からない起伏に富んだ苦の世界が人生だ、と達観しています。

ところで、世の中を天上から俯瞰すれば、目に見える世界と目に見えない世界から成り立っています。この思いを突き進めてゆくと、この世の先にはやがてあの世へと向かうようです。言い換えれば、あの世は極楽浄土であり、この世は娑婆浮世となります。あの世が実際に存在するのかは、未だに科学的には証明されていません。また有史以来、あの世からこの世に戻ってきた人もいません。そこでこれから、皆様と一緒に前人未到のあの世に、思いをはせてみることにします。

あの世を知る手がかりとして前世療法、退行催眠、臨死体験等がありますが、ここでは皆様ご承知の「般若心経」をテキストとして迫ってゆきます。般若心経はもとをたせば、「大般若経」六百巻からなる膨大な経典ですが、ここでは三蔵法師で知られる玄奘による字数にして二百六十余文字の教本を参考にします。

弘法大師＝空海は、これを次のように評しています。

一文(もん)は一紙に欠け、行(ごん)は則ち十四、謂うべし。簡にして要、約(つづまやか)にして深し、と。

これだけ簡単明瞭な教本は、ほかに見当たりません。

まさに天下第一の経典として古来より日本人には、極めて馴染みがあり、縁の深いものです。本屋さんにゆくと、般若心経の解説・注釈書はごまんとありますが、どれを読んでも難解の上なく、分かったようでよく分からない、というのが大方の感想です。なぜなら般若心経は字句の行間に「公開する秘密」が隠されているからです。その秘密を解くキーワードが、よく知られている「色即是空 空即是色」の8文字にすべてが凝縮されています。仏教の根本思想は、まさにこの「空」の一字に尽きる、と言っても過言ではありません。「空」とは冒頭で触れましたように、目に見えない世界が主役だからまことに厄介です。

そこで最初の「色」ですが、仏教でいう「いろ」とは色恋の色ではなく、形のある物質をすべて「色」といいます。そこで直訳すると「色＝すべての物質は空、つまり無く、空＝無いものがすべて物質だ」となり、意味をなしません。



## クラブ運営方針：ロータリー・ムーブメントに 新たな光りを！

これをもっと平たく言い換えると、「すべて(物質)はあるようでなく、ないようである」となりますが、これでも禅問答をしているようで、よく分かりません。結論から先に申しますが、ここには「因縁生起」という宇宙の真理が隠されています。「因」とは原因のことであり、「縁」とは「因」を支えて結果を生じさせる間接の力=条件のことで、つまり物質は、「因」=原因と「縁」=条件とが和合してはじめて生じる、ということになります。

物質の状態を大別すると、固体、液体、気体で成り立っています。最後の気体にさらにエネルギーを加えると、原子がイオンと電子に分離されます。この電離した気体をプラズマと言ひ、雷やオーロラがそれであり、太陽の中心部では核融合が起きているプラズマの塊です。宇宙ではこうした状態のなかで、「因縁生起」が起きているのです。

さて、わかりやすくするために、一つの例として植物をあげて説明します。大方の植物は、種から芽生えて、果実が実ります。これを種=原因と果実=結果に例えられますが、大局的には間違いではありませんが、厳密に言えば正しくありません。この場合、種はたしかに因=原因ではありますが、種を机の上に放置していると、いつまでたっても発芽しませんから、この時は結果=果実は実りません。だからここでは、種と果実の関係は、直接的に原因と結果にはなりません。

ところで、新約聖書「ヨハネ伝」第十二章に次のような言葉があります。  
——一粒の麦、地に落ちて、死なずんば、ただの一つにて終わらん。死なば多くの実を生ずべし。とあります。

つまり、一粒の麦が立ち続けていれば、一粒の麦でしかありませんが、一粒の麦が種となって地上に落ちて=死ぬと、地中の養分、水、日光などが作用=縁=条件して、やがて秋には豊かな実=果実が実ります。一粒の麦が実=果実になるには、土、水、日光など養分が和合してはじめて、麦は結実します。これが因=麦(種)を支えて、実りを促す作用のことを「縁」という条件があつてはじめて麦が実ります。つまり、原因=種と結果=果実の間に、「縁」という条件が和合しない限りは、果実は実りません。これが「因縁生起」の意味です。

今度は水という物質を例にあげて説明します。ご承知の通り、水は液体であり目で確認できますが、分子式はH<sub>2</sub>Oという目には見えない原子へと分解されます。水は水素2と酸素とが和合してはじめて水になります。つまり、酸素と水素が「因」となり、その二つの原子が一定の割合で結合=和合という「縁」=条件があつてはじめて水となります。

では水が、氷になるのはどういふことでしょうか。それは水温がゼロ以下になると水は凍り、ゼロ以上になると氷は溶けます。これは水が「因」となり、水温が「縁」=条件が和合することで氷になったり水になったりします。だから見方によっては「氷はあるようでなく、ないようである」となります。

すべての物質は「色即是空 空即是色」の状態にあり、「因縁生起」により、すべてが「空」だ、ということになります。

そこで、これを私たち人間にあてはめるとどうなるかを考えてみます。人間は肉体(色)と精神(受=感情・想=知覚・行=意志・識=意識)の二つから成り立っています。この精神のことを「魂・いのち」などに言い換える場合があります。先の水の分子式に習ひ、仮に人間の肉体を(B)、精神を(S)とすると、この世の人間は、B+Sと図式されます。だが、時間の経過とともに(B)は朽ちて寿命がくると(S)だけになります。だから人間は水や氷と同じように「あるようでなく、ないようである」という「空」であり、人間といえども万象の一つで「因縁生起」の産物でしかありません。

では人間の因は何かという、目に見えない宇宙の中に存在する「命」つまり生命です。人間も含めて万物と生命は一つであり、増しも減りもせずはじめて在り、常に流動し続けているのが天地間の相です。一昔前までは、物質と生命を二つに分けて考えていましたが、40億年前の化石から生命はいくつかの物質(水と有機物)の微妙な組み合わせから生じることがわかり、大乘仏教が説く通り、物質と生命は、一如であることが科学的に証明されました。

宇宙では、あまねくゆきわたった生命があり、それが因となって微妙な組み合わせによる縁=条件とが和合し、人間も動物も虫ケラも、さらには物言わぬ草木、石ころ等すべての物質は、因縁生起しています。それに万象は、一時も止まることなく流転していますので、その意味で世の中の様相は夢幻泡影(むげんほうよう)の仮の姿であつて実体はなく、「空」となります。つまり私たちがこの世に生きている—ということとは、因と縁とが和合した動的な均衡状態である「B+S」の図式にある時だけだ、ということになります。恒常的に生きているように見えますが、実は常に流動し—一時たりとも同じ状態ではありません。平たく言えば、一時私たちは身体=肉体を構成し、時間の経過とともに自然の中へと拡散し、生と死が繰り返されていることとなります。この事実を動的な面を強調して捉えると、一時的に万物は因縁により繋がっているだけで、その意味では実体はなく「空」となります。これが般若心経の説く「空観」のすべてです。釈尊は自らこの縁起の真理を、菩提樹下で発見されて仏となられました。

般若心経で説いているこの「空観」のことを、荘子は「知北遊篇」で次のように言い換えています。

一人は気が凝集すると生まれ、気が拡散すると死ぬ、と。

どうやら宇宙には、生命の気脈がジェット・ストリームのようにあり、凝集と拡散しながら物質の生成と消滅が繰り返されています。この因縁生起の真理が、あまねく宇宙の摂理を支配しています。すると人間は大宇宙の中の一つの産物として存在していることから、その宇宙の真理が、人間の中にも入れ子のよう作用していることが推論できます。

今、改めて自分の人生を回顧してみると、度々挫折と試練に遭遇しながらある時、大きな挫折で極限に立たされたことがありました。そこで居住まいを正して写経をしていると、あたかも神の啓示のごとく受ける瞬間があり、ふと閃いたのです。

—すべての自分の間違いは、よこしまな思い・考え方が「因」、その因を導く行動の「縁」が和合して、挫折という今の現象が立ち現われているのではないかと、思い当たったのです。

つまり天地間に「因縁生起の真理」があるように、自分の生き様の中にも同様、その真理が立ち現われているのだ、と気づいたのです。これは私にとって菩提樹下の成道ともいふべき一大発見で、わが生涯の人生開眼でもありました。爾來、生きる意味や価値の回答は、自分の外に求めるのではなく、実は自分の内側に生まれながら秘められていたことに気づき、価値観の革命的な変革をもたらしました。人生とは、自分らしさを磨く場であり、価値を創造しながら成長するプロセスであります。そのためにはどうしても試練と挑戦が不可欠だったのです。まことに挫折という逆境に立たされた中から、はじめて確固たる生きる意味を知り、心に火が点ってゆらぎない人生観のもと、生きてゆく原動力を、自分の中で開発したことになります。

宇宙を律動させているのは、因縁生起という宇宙の真理でした。人間も宇宙のシステムの中の一員ですから、私たちの人生はこの真理により、すべては創られていることになります。すると、人生で遭遇する苦楽をはじめ生老病死のすべては、この真理が立ち現われことに過ぎないこととなります。だから人生は自分の意志ですべては、創り上げられることとなります。当クラブの会員は職業分類の通り、天職として、すべては自分の意志・考え方・思いが、「因」となり、それを促す行動の「縁」が和合して、今の自分=果が立ち現われていることとなります。

だからそれぞれの人生は、自らが自らを創り上げ、成功・失敗、幸福・不幸などのすべては各自が創った「因縁生起」の産物です。人間はかくありたい、どう思いが実現できる「考える輩」であり、創造の名人です。思い=「因」が道具となって人生という大地を耕して種を蒔き、日光、養分、水などの「縁」=支えにより花が咲き、やがて良い思いは良い果実を結び、悪い思いは悪い果実を結びます。だから私たちは、自らの思いが創る幸せや不幸の果実を、生涯にわたって収穫してゆくこととなります。

ここで纏々述べてきたことを改めて要約します。人生とは思い=意志・考え方が「因」となり、因を支える力=「縁」=行動が和合した結果であり、そこに人格が形成されます。これを図式にすると、「思い・意志」x「行動」との総和が人生・成果・人格となります。この真理は、金持ち、地位、権力などとは関係なく平等にストレートに立ち現われます。

さて、経営の神様の一人の京セラの稲盛和夫さんは、これらを一つの方程式で表現されています。

人生・仕事の成果=考え方x情熱x能力

つまり、人生はこれら三要素の掛け算によって得られ、決して足し算ではないこと。また最も重要なのは「考え方」で人生は決まり、考え方には心のあり方、生きる姿勢、哲学、理念、思想などが含まれる、と。

仏教に「思念(考え)が業をつくる」という教えがあります。業とはカルマともいい、現象を生み出す原因となるものです。つまり、こうありたい—と思ったことが現実となって姿を現してきます。

さて、いよいよ結論ですが、改めて般若心経のキーワードを思い出して下さい。「万物は因縁より生じる」は、宇宙の真理でした。私たちは、宇宙の中の一粒子であり、その相似形をした小宇宙です。私たちは、宇宙の真理からこの世の地上に投影された最前線で主役を務める生命体であり、まさしく「因縁生起の真理」の具現者でもあります。すると良し悪しは別にして私たちの人生とは、これまでこうありたい、という思いが「因」、その思いにもとづく「縁」=行動とが和合し、今の姿が立ち現れていることに改めて気づきます。そこで、冒頭で例えように人生とは、筋書きのないドラマのように、決して偶然や運命とかに翻弄されるものではなく、すべては自らの考え方にもとづく真正銘の自作自演によるドラマが、実は人生そのものだったのです。

では最後に、「因縁生起の真理」を実現させた実在の人物をあげて、締め括ります。

その人の名は、ゲイル・ホプキンス氏です。ある程度年配の野球ファンであれば、誰でもご存知の選手です。1975年、広島東洋カープのジョー・ルーツ監督に請われて来日、球団入りします。彼は以前から医者になる、という篤い思いがあり、現役中も医学書を手放さず、試合の合間や野球が雨で中止のときは、医学書を読み漁りました。プレーのかたわ、広島大学に通って勉強し、野球の選手と医学の勉強を両立させています。75年10月15日の読売ジャイアンツ戦の優勝決定戦では3ランを放ち、セントラル・リーグの優

勝の立役者になります。現役引退後、医師への思いを実現させるために、シカゴのラッシュ医科大学に入学し、はれて整形外科医になります。現在はオハイオ州で病院を開業し、整形外科医を務めるかたわら、地元の大学教授として活躍しています。彼の場合、野球選手でありながら医者になりたい、という気高い思いが「因」、それを促すように、野球選手で活躍しながらも寸暇を惜しんで医学書を読み、また大学の研究室に向き、引退後は医大に入る、という「縁」が和合することで、はじめて整形外科医への篤い思いが結実してゆきます。2013年5月、広島市で第86回日本整形外科学科学術総会が開催された折、総会に参加のためホプキンスは来日します。その時、広島対楽天の試合前に始球式でマツダスタジアムに立って、大歓声に包まれました。その模様を広島大学大学院整形外科教授の越智光夫氏が、「医師・ホプキンスの凱旋」と題して文芸春秋誌にエッセイを寄稿しています。このご時世、一芸に秀でることすら困難な時代に、二芸にわたり偉業を成し遂げた彼こそ、「因縁生起の真理」を成し遂げた証人であり、また気高い大志を貫いた孤高な凱旋者です。70有余年の人生の中で、習得した生き方の一端を披露することで、私に与えられた責めを果たさせていただきました。ご清聴に深く謝意を表します。誠に有難う存じます。



副会長兼会員常任委員長  
中山昌実 会員

まずは、会員組織常任委員長の立場から、わが委員会は「石井会員増強委員長」「高原会員選考委員長」「森嶋ローター情報委員長」をはじめとした優秀なメンバーにささえられ、目標以上の成果を上げられたことに対しお礼申し上げます。また、副会長としましては河本会長・合田幹事がスムーズに運営にあたられ、私の出る幕はなかったように思います。もう1つ、IMの副実行委員長を仰せつかりました。山坂実行委員長のもと「高原がバナー補佐を男にする」をスローガンに、皆様の協力により開催出来ましたことに感謝を申し上げて、退任の挨拶とさせていただきます。



幹事 合田尚義 会員

今年度、幹事を務めさせていただきました合田です。幹事の職務としまして、会長方針と計画の推進にあたるべく、理事役員の皆様、各委員会の委員長、委員の皆様の大変に大きなご協力を頂きながら、自分なりに精一杯に務めたつもりではありますが、振り返ってみますと、私自身の知識不足、配慮不足、また力不足を痛感させられる場面が大変多くあったという現実の一方、不謹慎ながらも、大変多くの事を学ばせて頂き、非常に貴重な経験をさせていただいたというのが、正直な気持ちであります。いざと言う時には団結する北ロータリー、熱い気持ちを持ったロータリアン集団の北ロータリーというものを、幹事の立場から改めて実感させて頂き、ますます、北ロータリーに惚れ直した一年であったと思います。会員の皆様には本当にお世話になりました。最後に、執行部を牽引頂きました河本会長、中山副会長、そして一生懸命に私を支えて頂きました二井本副幹事と佐々木副幹事に感謝。申し上げ、退任挨拶と致します。一年間、ありがとうございました。



副幹事 佐々木礼正 会員

今年度、副幹事を務めさせていただきました佐々木でございます。まだ入会歴も浅かったため、最初は役割もほとんどわからないままのスタートだったので、不安だらけでした。行事に関しても初めての事が多く、段取りが悪い事が多々あり、合田幹事をサポートできたとは言

難いですが、副幹事をさせて頂いて良かった事は、理事会や、各小委員会などに参加をさせて頂いたお陰でどの様にクラブが運営されているかがわかってきましたし、参加させて頂く事で多くの会員の方と話が出来たのも良かったです。色々な方と関わりを持ってより一層、北ロータリーの事を好きになりました。二井本副幹事には、色々とお助け頂いたので本当に感謝しております。副幹事は同じ立場で二人いるというのもいいなと思いました。もう一点、私事ですが、仕事柄、生活リズムが皆様と逆転していて朝に寝る私には、例会前の準備で早く来るのも辛い事も多々ありましたが、あと一回ありますが多分ホーム例会100%出席を達成出来ると思います。これも自分自身の中では自信につながります。いたらぬ副幹事ではありましたが、一年間勉強させて頂いた事を今後のロータリー活動に活かしていきたいと思っております。心残りは、合田幹事にもっとご飯に連れて行ってもらえば良かったなと思っております。以上で退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



副幹事 二井本浩司 会員

今年度、副幹事を務めさせていただきました二井本です。1年間ご協力いただき、又ご指導賜り本当にありがとうございました。出発当初は、ローター歴が浅く不勉強な私に副幹事が務まるのかと不安一杯でスタート致しました。議事録作成についてもやっていけるのかとプレッシャーを感じましたが、佐々木副幹事からボイスレコーダーを手渡され、勇気づけられてなんとか議事録作成をこなしていきました。再度ボイスレコーダーで理事会の内容を聞いていると、あの話はこういう事だったのかという事がだんだん分かってきて、そういう意味でも良い勉強になりました。他にも、あの時こうするべきだったとか、何故こうしなかったのかと、悔やまれることが多々ありますが、大過なく1年が終わり今はただ「ホッ」としています。そんな訳ですから、あまり副幹事として役には立たなかったとは思いますが、私にとっては、勉強に徹するという事で精一杯取り組ませて頂きましたので、非常に有意義な1年になったと思います。残念なことは、ホーム例会が100%出席を目指しましたが、仕事の都合で1回、インフルエンザで1回、計2回例会を休み達成できなかった事と、今だから言えますが副幹事を5年くらい連続で担当させていただけると、少しはまともになせようになつたかなとは思いましたが、残念ながら前例が無い事と、来年度は藤田さんと吉永さんが既に副幹事という事で決定していますのでその思いはお二人に託しまして、次年度の米山奨学委員長とカウンセラーという役割に活かしてまいりたいと思っております。最後になりますが、勉強できる環境を与えていただきました事と、皆様のご指導に感謝致しまして、退任の挨拶に変えさせていただきます。1年間有難うございました。

■出席報告 出席委員会

2015年6月18日(木) 会員数 88名

出席 70名 欠席 18名

6月4日例会出席率 100%

■次回例会 2015年7月2日(木) 12:30~

卓話 正副会長幹事就任挨拶

食事 幕の内

